

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表 (令和6年度)

法人名	株式会社 美空	代表者	津野 克久	法人・事業所の特徴	株式会社美空は、高知県南国市・香美市に高齢者介護の事業を展開しています。現在、地域通所介護事業所を3軒、小規模多機能型介護事業所を2軒運営しております。地域に根差した介護を心掛け、利用者様、ご家族様の思いに寄り添ったケアを提供できるよう、日々取り組んでおります。
事業所名	小規模多機能ホーム みそら山田	管理者	津野 優子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	1人	1人	3人	0人	0人	9人	0人	15人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ol style="list-style-type: none"> 勤務前後に申し送りノートを確認する(2回/日)。情報の更新があった際に把握が遅れないために。 その人がどういう暮らしをしたいのかをモニタリングの際に話し合ってみる。 個別ケアのタイミングで本人との会話を大事にし、一人一人との関わりを深めていく。 本人と地域との関わりについて情報収集に努める。 利用者それぞれの地域の資源や、ケアに活用できる場があるかどうか、勉強会を実施していく。 参加経験がない職員が、会議や地域の活動に参加する機会を作る。 事業所の運営状況についてすべての職員が把握できる機会を設ける。 会議の際には必ず自分の意見を発表し、議題の解決につなげる。 行動を制止する際は理由を伝え、了解を得るよう心がける。成年後見制度についての勉強会を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 個々のタイミングではあるが申し送りノートの確認を徹底し、特に休日明けの勤務前には情報の把握に取り組むことが出来た。新たに習得した情報を逃さずに報告、連絡する事に取り組む些細なことでも皆が知っている状態を作れるよう取り組んでいた。 介助の方法や内容の妥当性、支援内容についての話し合いは行っているが、目標への評価にとどまり本人の暮らしにまで議論が至らなかった。 入浴や送迎等の個別ケアの時間を使ってそれぞれの利用者に応じたコミュニケーションで取り組むことができた。 主にはケアマネージャーが行う業務内容でありケアマネージャーは取り組んでいるが、現場の介護スタッフが取り組むには、スキルや時間が不足している。 勉強会は実施していない。地域資源を支援に活用することがなく、必要性を感じなかったため、積極的に取り組みが行えなかった。 地域の清掃活動に参加するよう呼びかけ、昨年より参加者が増えた。運営推進会議にスタッフが順番に参加できるようシフト調整したことで経験できた。 運営推進会議の資料、議事録等を 	<p>成果が見えた部分と見えなかった部分があるが、職員全員の意見を反映した改善への対策が検討されていることが分かった。</p> <p>昨年度課題に挙げていた内容について事業所独自で研修会を行い、スキルアップにつなげている。</p> <p>民生委員についての勉強会を行う際には今後も役に立つ情報を提供します。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 利用開始からの1カ月は家族(介護者)への関わりを意識して取り組む。 定期的に(モニタリングのタイミングで)暮らしの目標を本人に確認することに挑戦する。 生活歴や経過を把握できるような関わりを実践して、日常生活の支援につなげる。 自身の住む地域の民生委員を把握する。「民生委員」について勉強する。 事業所近辺で支援に活用できる地域資源を新たに探し活用してみる。 会議や地域の活動への参加人数を増やす。 スタッフ一人一人が事業所の運営に関わっている事を自覚し、登録者数や利用状況を説明できるように把握する。 多数の中で自信を持って発言できるようになる為に、今後も自身のスキルアップ向上に取り組む。 介助や情報交換の際のプライバシー保護への配慮を意識する。

		<p>スタッフが毎回確認することで、運営状況の把握に取り組んだが、業務に追われて時間がなく、全部を確認する事が出来ていない状況。</p> <p>8. 自分の考えを発表することが毎回出来なかった。議題の解決に全員で取り組むことが出来ていない。</p> <p>9. 立ち上がりや移動、その他の動作を待っていただく機会が多くあるが、意識して「～なので待ってください」「あと～分待ってください」等伝える事が出来た。咄嗟の行動には伝えられなかった場合がある。成年後見制度についての勉強会を実施し、スキルアップにつながった。</p>		
B. 事業所のしつらえ・環境	清潔で居心地の良い環境でご利用者に過ごしていただく。	<p>毎日の掃除、換気、消毒等にて清潔な環境でのサービス提供を維持できている。</p> <p>悪天候以外、日中は玄関戸を常に開けた状態。</p> <p>近隣の金属業者の騒音には、状況に応じて苦情を伝え改善依頼している。</p>	<p>とても居心地の良い環境で気に入っていますが、時折大きな音がして驚くことがあります。</p> <p>近隣からの騒音や埃に対しては、今後も継続して状況を確認しながら、地域や行政と一緒に対応していきましょう。</p>	<p>「近隣からの騒音による不快感を軽減する」</p> <p>サービス提供時間（特に日中）に騒音等で不快を感じた時には、積極的に業者に伝える。</p>
C. 事業所と地域のかかわり	地域の会合や行事の日程、内容を周知する。	一斉清掃への参加を呼びかける事で参加者を増やすことが出来た。自治会や神祭の日程を周知することはできたが参加には至らなかった。	<p>事業所があることは知っているが、どんな内容であるかを知っている人は少ない。</p> <p>民生委員の活動や会合の中でも情報を広げていきます。</p> <p>社会福祉協議会との関わりを作り、連携体制を整えてみてはどうか。</p>	<p>「より多く小規模多機能事業所を知っていただけるような活動をする」</p> <p>今まで関わりが少なかった分野にも情報発信できるような取り組みを検討していく。</p>
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域、近隣の活動やイベントに利用者とともに参加する。	<p>季節に応じた花見スポットを探して、利用者とは出かける、事業所近辺の散歩、商店で買い物をする等行っている。</p> <p>利用者の住んでいる地域の資源の活用、近隣住民との関わりが増やせていない。</p>	<p>事業所近辺のイベントに限らず、広域（香美市全体）でのイベントを利用してはどうか。案山子祭り等は利用者も一緒に制作に取り組んで参加できると思う。</p>	<p>「地域の活動やイベントに利用者とともに参加する」</p> <p>利用者の住んでいる地域の資源活用やその地域のイベントを調べていく。</p>
E. 運営推進会議を活かした取組み	多様な職種、立場から意見や助言をいただき、運営に反映させる	<p>高齢介護課との情報共有や相談、助言により、改善につなげることができている。地域の中の心配な方について民生委員から情報提供や相談、助言等をいただいている。</p> <p>利用者家族に会議への参加依頼をして</p>	<p>運営状況がわかりやすく説明されている。資料が新しくなり、事業所の取り組みが以前よりわかる。</p>	<p>「多様な職種、立場から意見や助言をいただき、運営に反映させる」</p>

		<p>いるが、平日の日中に開催することで、参加者が増やせていない。</p> <p>運営推進会議の報告書や議事録等の内容を見直し、より運営内容を周知していただける資料に変更した。</p>		
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>訓練を実施し、BCP の内容の強化を図る。</p>	<p>災害避難訓練・防災訓練を 5 月、11 月に実施した。</p> <p>BCP 訓練・研修を 10 月に実施した。年 1 回、香美市消防署に参加要請し、訓練の評価、消火器訓練を実施している。</p>	<p>BCP や防災計画は知らないが、定期的に訓練を行い、それに自分が参加することにより、災害時には頼れる場所であり心強いと感じる。</p>	<p>「BCP の見直し、内容の具体化」</p> <p>研修、訓練を重ね、現場で活用できる BCP にするために、見直しをはかり、内容を具体化していく。</p>

作成日 令和 7 年 3 月 26 日